

5 指導実践の概要及び実践結果の分析と考察

(1) 指導実践の概要

実践計画に基づき、研究協力校の2年生1クラスにおいて第2クール「わたしの夢」の指導実践を行った。【資料1】は総合的な言語活動「わたしの夢」で最終的に生徒が書いた英作文の例である。2人とも「～したい」というトピックセンテンスを広げ、“be going to～”を活用し、“具体的な将来の計画や自分の気持ちを表現している。これは9頁の関係図⑩の“want to～”と、①で示した“be going to～”の指導が英作文に作用した例である。

この英作文は、教師による同時進行のガイドに従って書いたものではなく、生徒が日常授業における既習表現をコミュニケーション場面で活用し、タスクとして書いた作文である。要した時間は15分～20分程度（イラストやカラーは除く）、スペリングは各自が教科書や語彙集で確認している。

このように、生徒が既習表現を活用して、タスクとしての英作文を書けるようになるための基礎的能力の指導の概要を以下に、具体的に述べる。

【資料1】総合的な言語活動「わたしの夢」における生徒の英作文の例

<p>This is my dream!</p> <p>I want to be a scholar.</p> <p>I want to learn culture of the world.</p> <p>Culture of the world is interesting.</p> <p>I'm going to study hard.</p> 	<p>This is my dream!</p> <p>I want to be a musician.</p> <p>I want to impress people.</p> <p>I like to play the trumpet.</p> <p>I am going to go to college.</p> <p>I'm going to study hard.</p> <p>I like music very much.</p> 	
<p>日本語でひとこと</p> <p>歴史では西洋の方が好きで</p>	<p>*未来形“be going to～”を使用して、自分の気持ちを適切に表現している。</p>	<p>日本語でひとこと</p> <p>ポップスよクラシックの方がいいよ!</p> <p>*“want to + 動詞の原形”を使用して、自分の気持ちを適切に表現している。</p>

ア Unit2 Yumi Goes Abroad 【Starting Out】における指導

(ア) 1回目の授業～新出表現の理解と練習から音読指導へ～

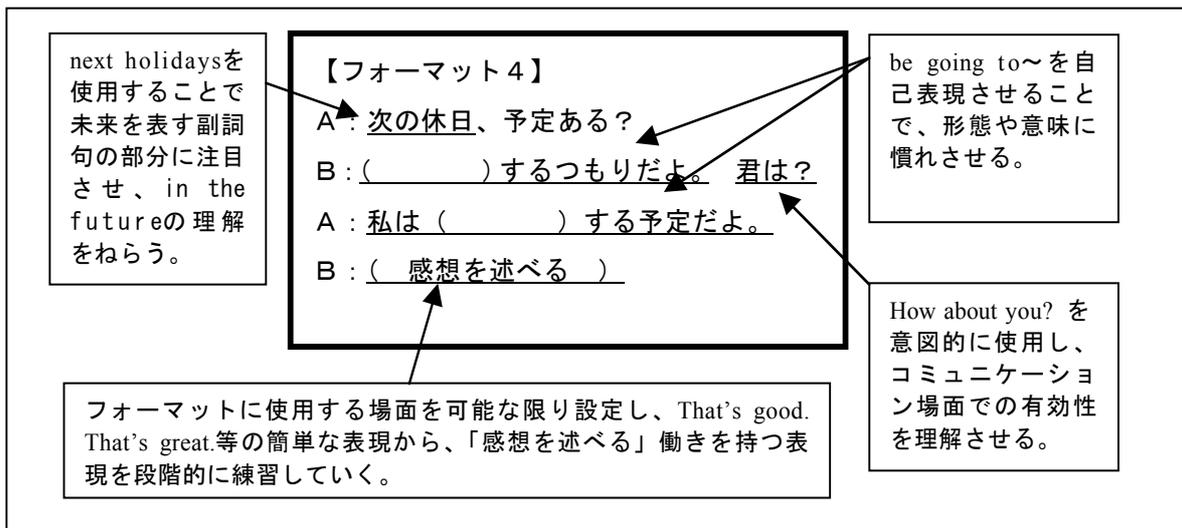
1回目の授業では“be going to + 動詞の原形”という新出の基本表現と教科書の新出語句の理解と練習を中心に指導した。次時で使用するフォーマット4と指導のねらいを、15頁の【図6】に示した。

このフォーマットでパフォーマンスを行うために、「自分（教師）が次の休日の予定を述べる」というオーラルイントロダクションによる導入を行った。生徒に“I'm going to go to the beach. What are you going to do?”と質問し、Q&Aによるインタラクションの活動へと展開した。

【資料2】Unit 2 Emi Goes Abroad 【Starting Out】における指導の概要

総合的な言語活動「わたしの夢」へ向けての指導の要点とねらい
 ①対話文のフォーマットでbe going to～の形態と意味に慣れさせる。
 ②未来を表す副詞(句) tomorrow ,next Sunday の部分を自己表現させ、「わたしの夢」での使用を意識させる。

過程	学習内容	生徒の活動／指導内容	生徒の様子(観察)・反応等
既習表現の活用	第1回 1 Oral Introduction は教師の話した英語または指示。 2 Questions & Answers What are you going to do next holidays?	・教師の英語を聞いて内容を理解する。 I have a question for you. We have three holidays next weekend. What are you going to do next holidays? I'm going to go to the beach and to body-board. I like body-boarding very much. It is interesting for me. How about you? What are you going to do next holidays? ・教師の質問に答える	・英語での口頭導入をよく理解し、日本語で反応をしている。 は生徒の反応例
	3 基本表現の文型練習 4 新出語句の練習 5 本文の音読練習	・例えば、「Do you like clarinet?」や「Are you a member of the volleyball club?」のように質問を展開し、自己表現素材に気づかせる。 ・「be going to+動詞の原形」の説明を行う。 ・「next holidays」を使用し自己表現を行う。 ・チャンクリpeat×2 ・センテンスリpeat×2 ・個人練習×2 ・指名読み(8名)	・「play baseball」「play volleyball」「play the clarinet」等の反応。「何もしない」という生徒の反応から「enjoy myself」の表現を導入した。 ・ほとんどの生徒がI'm going to～next holidaysの文を自己表現できた。 例) I'm going to play the video game next holidays. ・8名全員が音読を達成できた。
既習表現の活用	第2回 1 Question & Answers (Formative Input の開始) 2 本文の音読練習 (復習)	・教師の質問に英語で答える。 What are you going to do next holidays? ・チャンクリpeat×2 ・センテンスリpeat×2 ・個人練習×2 ・指名読み(8名)	・ほぼ全員の生徒が英語で反応できた。 ・1回目の授業とは異なる5名の生徒に指名。全員がP.12を音読できた。
	3 フォーマットの提示 フォーマット4 【補充資料3】参照 *意味のやり取りを確認しながら、黒板に提示 4 自己表現&リハーサル (Easy Output の開始) 5 パフォーマンス 6 イージーライティング *授業では時間の関係で宿題として提示した。 ②副詞句(in the future)を用いて、次の英文を書かせる。 I'm going to go to college in the future. 【資料3】参照	A: 次の休日予定ある? B: ~するつもりだよ。君は? A: 私は~する予定だよ。 B: (感想)を述べる。 ・フォーマットの意味のやり取りを理解し、自己表現する部分を確認する。 ・生徒とのInteractionから「How about you?」を引き出し、フォーマットで使用させる。 ・黒板に提示されたフォーマットにより、ペアでシナリオを完成させ、5分間のリハーサルを行う。 ・リハーサルを観察し、質問等に答える。 ・「あと1分で発表です。」と集中力を高める ・それでは希望者から! 「はい!」 ・希望者の発表後は指名で発表 ①次の休日(next holidays)の予定を表す英文をできれば2文以上、書いてみよう。 【資料3】参照 ・スペリングがわからない語句を確認する。	T: Bの人は... It's easy. 「~する予定だ」って答えればいいよね。何を使うの? S: be going to! T: Yes, that's right. で、その後Aの人に「君は?」って聞き返そう。どう言えばいい? S: And you? T: ん〜、いいけど別のも習ってるよ。 S1: How about you? だ! S1: 先生、practice は practice the 楽器でいいの? T: Practice the..... S1: Saxophone! T: Yes, that's right. ・どのペアもスムーズにリハーサルをしているのを確認。 ・4組のペアが挙手した。 ・全員が発表できた。 ・制限時間2分間、全員が完成できた。パフォーマンスの内容は【資料2】参照 ・play the 楽器、go shopping、enjoy myself等の質問が出された。



【図6】本実践におけるフォーマット4の指導のねらい

この段階で、ほとんどの生徒は、質問の意味を理解できていた。そこで「単語だけでも、日本語でもいいよ。」と話し、5名の生徒に質問していった。S1は“play baseball”と反応できたので、“Oh, you are going to play baseball next holidays. Everyone, he is going to play baseball next holidays . Very good answer.”と全員にフィードバックを行った。

また、S3からは“You are going to play the clarinet. Are you a member of the brass band club? Do you like music?”のように質問を展開し、自己表現活動に向けて、言語材料を引き出した。

オーラルイントロダクションから、Q&Aの活動で、生徒は本時の基本表現の意味が理解できたと判断し、“be going to +動詞の原形”の文法的な説明を行った。

口頭練習は、教科書の例文だけではなく、Q&Aで生徒が話した“play baseball” “enjoy myself”等の表現で行った。フォーマットでの自己表現に向けて、「自分ならこう言うな。」という気持ちで練習させるためである。

新出語句の練習と本文のリスニングで意味を確認した後、フォーマティブンプットの手順1である音読練習を開始した。

最初にチャンクごとのリピートを行った。本実践にお

【例2】Unit2 Starting Outにおけるチャンク

Ms.Green : Do you have / any plans/ for the “Golden Week holidays? ”

Mike : I’m going to /visit/ Lake Towada/ by plane.

Ms.Green : I’m going to/ go to/ Easter Island.

And /I’m going to/ leave/ tomorrow!

けるチャンクはフォーマットとの関連を考慮し【例2】のように区切った。1回目は音と文字が一致しているかを観察しながら、ゆっくりとしたリピートをさせた。2回目は、速度を少し速めてリピート練習を行った。生徒のリピートの反応から、ほぼ全員がリピートできていると判断し、センテンスごとのリピートへと進んだ。センテンスごとのリピートも、1回目はゆっくりと、2回目は速めに行い、生徒の音と文字が一致しているかを観察しながら行った。2名の生徒に個別指導が必要なことを把握し、個人練習へと進んだ。

本時では、起立して2回音読できたら着席するという練習を行った。生徒は、この間に音に自信のない単語を周囲に確認し、「ひとりで全員の前で音読する」指名読みの準備を行う。この間に、個別指導が必要な生徒の音読の実現状況を把握し、指導を行った。本時では、2名とも数個の単語の読み

を指導するだけで、音読ができるようになった。次に、フォーマット4を用いての「自己表現&リハーサル」へ移行するかを判断する形成的な評価として、指名読みを8名に行った。8名全員が音と文字が一致している読みであった。

フォーマティブインプット手順ではこの後、自己表現&リハーサルの段階へと展開するのだが、本時は、短縮授業ということもあり、音読練習までで終了した。

(イ) 2回目の授業～フォーマティブインプット&イージーアウトプット～

2回目の授業はフォーマティブインプット&イージーアウトプットの活動が主となる。

そこで、「既習表現の活用」の活動は、“What are you going to do next holidays?”を用いてのQ&Aでスタートした。フォーマット4での自己表現のための指導でもあり、フォーマティブインプットに進めるかどうかの形成的な評価場面でもある。

全生徒が応答できると確認したので、「今日もフォーマットにそって暗唱発表してもらいます。」と目標を意識させ、教科書本文の音読練習（復習）へと移行した。手順は1回目の授業と同じであるが、1回目とは異なる8名の生徒に指名し（個別指導をした生徒2名を含む）、全員が音読できることを確認した。次に【図7】のようにフォーマットを提示した。

【フォーマット4】

A: 次の休日、予定ある？

B: ()するつもりだよ。君は？

A: 私は ()する予定だよ。

B: (感想を述べる)

T) まず、予定を聞いてください。今回は中総体の代休の時の連休の予定を友人に尋ねるという設定になります。

T) Bの人は(間)簡単だね。「～する予定だ」って言えばいい。何使うの？

T) で、Bの人は「感想」を言ってあげてください。どんな表現がありますか？ Good. /Great. / That's nice等を確認

T) ではAの人は、どう答えるの？ (反応)そう、be going to～でいいよね。

T) で、その後にAの人に「あなたは？」って聞き返そう。何て言えばいい？
Yes, how about you? (板書しながら) これすごい便利な表現なんだよ。また使うから覚えておこう。→簡単な口頭練習へ。

【図7】本実践におけるフォーマットの提示

その後、2名の生徒に指名し、即興でフォーマットに挑戦させた。流暢ではないが、【例3】のようなパフォーマンスができた。即興でできたことをほめてから、言語の使用場面や働きを考えてフォーマットを完成させる指導を全員に行い、自己表現&リハーサルの段階に移行した。練習時間は5分間とし、確認したい表現等は質問するように指示をした。

【例3】

A: Do you have any plans for next holidays? ”

B: I'm going to play the tuba. How about you ?

A: I'm going to play the saxophone.

B: Very good.

【資料3】Unit2 Emi Goes Abroad 【Starting Out】における生徒のパフォーマンス

<p>《ペア01》* 挙手で発表</p> <p>A) Hi, good morning.</p> <p>B) Good morning.</p> <p>A) Do you have any plans next holidays?</p> <p>B) I'm going to <u>play baseball</u> next holiday.</p> <p>How about you?</p> <p>A) I'm going to <u>swim</u>.</p> <p>B) Oh! Very good.</p>	<p>《ペア02》* 挙手で発表</p> <p>A) Good morning.</p> <p>B) Good morning.</p> <p>A) Do you have any plans next holidays?</p> <p>B) I'm going to <u>play badminton</u> next holiday. How about you?</p> <p>A) I'm going to <u>play a video game</u>.</p> <p>B) Oh! Very good.</p>	<p>《ペア03》* 挙手で発表</p> <p>A) Hi.</p> <p>B) Hi.</p> <p>A) Do you have any plans next holidays?</p> <p>B) I'm going to <u>play the PC</u> next holiday.</p> <p>How about you?</p> <p>A) I'm going to <u>practice the saxophone</u>.</p> <p>B) Very good.</p>
--	---	--

どのペアも活動がスムーズだと判断し、パフォーマンスへと移行した。生徒のスキプトの例を16頁【資料3】に示した。パフォーマンスは「話すこと」の形成的な評価場面でもあるので、音声的な指導も行ったが、ここでは省略する。ただ、13ペア中、12のペアは暗唱して、パフォーマンスができたと判断した。一組のペアが最後まで発表することができなかったが、「自己表現はできているが、暗記ができていない」状態であったので、再挑戦の指示を出し、イーजीライティングの活動に移行した。本時で使用したイーजीライティングのためのシートが【資料4】である。

イーजीライティングに要した時間は3分程度であった。「できれば2文以上、書いてみよう」という指示で、様々な自己表現を書かせることをねらったが、2文以上書いた生徒は25名中8名であった。

また、記述状況から「スペリングミスと判断する生徒（3名）」と「文法のミスと判断する生徒（1名）」を確認した。スペリングミスや文法ミスはあるが修正が容易であると判断し、次時に個別指導を行うことにした。

25名中、ミスのない生徒が22名であったことからイージーアウトプットにより、生徒は未来の予定を述べる“be going to～”の働きを理解できたと判断し、繰り返し練習のためのシート【資料5】で定着練習を図った。

【資料4】第2回目の授業で使用したイーजीライティングのシートと生徒記入例

【資料5】“be going to ～” 定着のための練習シート（抜粋）

1 次の英文を指示に従って書き換えなさい。

(3) We play baseball every day.
(下線部を “next week” にかえて未来形に)

2 次の語を並べ替えて正しい英文にしなさい。

(1) 私は将来 (in the future)、数学の先生になる (「～になる」 be a～) 予定です。
I'm going to be a math teacher in the future.

(2) 私は将来 (in the future)、看護師になる予定です。
I'm going to be a nurse in the future.

(3) (だから) 大学に行くつもりです。
I'm going to go to college.

問題1は、形態の定着に焦点をあてた問題である。

全文を書かせることで、符号やスペリングを正確に書くことをねらった。

問題2は副詞句に“in the future”を使用することで、総合的な言語活動「わたしの夢」に結び付く例文となっている。

イ Unit3 E-pals in Asia 【Dialogの授業】における指導

9頁の関係図の◎で示した到達目標文と最も関連の大きい言語材料と言語の働きをもつ単元（題材）の指導である。“want to + 動詞の原形”の表現に慣れさせ、総合的な言語活動を意識して、“I want to be～.”を用いて自己表現文をアウトプットさせることがねらいになる。指導の概要を次頁からの【資料6】で示した。